第21号
令和元年12月発行

子ども通信

この通信では、「子どもの権利」に関するさまざまな取組をお知らせします。

子どもの権利条例10周年！

10周年イベントで「子どもにやさしいまち」をみんなで考えました

札幌市の子どもの権利条例がスタートして今年で10年。11月17日(日)にはサッポロファクトリーアトリウムで、記念イベントを開催し、子どもの権利の大切さについて広く知ってもらい、みんなで考える機会としました。

イベントは、夏からたくさんの子どもたちに協力してもらいながら、開催することができました。

そして、巨大人形劇ピノキオの女神像が見守る少し変わったステージで、子どもたちの色々な活動発表が繰り広げられる楽しいイベントになりました。

ポイント1 札幌の子どもたちのいまを伝えるイベント

札幌で活躍する子どもたちの活動発表や困ったときの相談先の話のほか、巨大人形劇の上演も！

①学校(藻岩中学校生徒会)

子どもの活動発表は、学校の取組からスタート。

学校行事や生徒会活動の紹介のほか、学校全体でまとめた、大切だと思う子どもの権利ランキングを発表。

一人一人の考え方の違いを尊重する大切さに気づかせてくれる取組でした。

②児童会館子ども運営委員会(いなづみ児童会館)

市内全館に「子ども運営委員会」があり、子どもたちが利用ルールを考えたり、行事の企画・運営をしています。

企画したハロウィーンパーティーの紹介を通して、考えが形になる嬉しさや責任をもつ大切さを伝えてくれました。

③子ども会(山の手さくら子ども会)

市内約430の子ども会では、子どもたちがキャンプなど様々な体験活動に参加し、ジュニアリーダーとして活躍。

発表では、行事や活動紹介のほかバルーンアートの実演もあり、来場者を楽しませてくれました。

④子ども議会(子ども議員)

札幌のまちづくりを話し合い、提案・意見表明などを行う子ども議会。

今年は①札幌市民以外から見た札幌市、②交通機関のマナーをテーマに、街頭でのアンケート調査や勉強会の成果を発表したほか、来場者からも意見を聞きました。

⑤子どもアシストセンター(子どもの権利救済機関)

子どもが悩んでいるときに気軽に相談できる子どもアシストセンターを、クイズや動画を交えて紹介しました。

また、子どもの権利救済委員から、困ったとき一人で悩まず相談してほしいというメッセージを伝えました。

⑥巨大人形劇「ピノキオ」(やまびこ座・こぐま座)

フィナーレは巨大人形劇。札幌に息づく児童劇・人形劇の紹介後、子どもたち扮する動物たちの踊りや楽団の演奏、5mの高さでそびえる女神とピノキオのかけ合いなど、迫力のパフォーマンスを披露しました。

ポイント2 子どもたちがつくる子どもが主役のイベント

イベントでは、ステージ発表だけでなく、司会や出演者の誘導、会場案内でも子どもたちが活躍。

準備段階から全体の企画・運営などに携わってくれたのは、小・中・高校生15名からなる「子ども未来委員会」の子どもたち。

子どもの主体的な参加や意見表明を体現するイベントとして、参加した子どもたちが後で「みんなで考えて楽しかった」「ちょっと成長したな」と思い出してくれることを願っています。

子ども未来委員会 舞台裏レポート

▼チラシや司会シナリオ、発表資料もつくりました！

チラシでは「当日まで冷蔵庫にはっておいて」「来たら茶柱が立つよ」などちょっと変わったPRも考えました。

▼裏方としてもがんばりました！

来場者へのパンフレット配布や案内のほか、札幌市長のエスコート、控室から出演者の誘導など裏方としても活躍しました。

ポイント3 子どもにやさしいまちってどんなまち？を考えるイベント

イベントでは、子どもの権利条例の紹介とともに「子ども未来委員会」の子どもたち自身が考えてまとめた「子どもにやさしいまち」を発表。

来場者とのやり取りも交えて、子どもの権利についてみんなで考える機会としました。

読んでいるみなさんもぜひ考えてみてください。

子どもが考える子どもにやさしいまち

《個性を伸ばせる・チャレンジできるまち》

- 自分を好きになることが自信につながり、新しいことにチャレンジできる。
- 周囲に認められたときに成長を感じる。がんばったことを発表できる場があるといい。

《子どもの意見が尊重されるまち》

- まちづくりなど子どもに関わることは、子どもの意見を聞いてほしい。
- 大人や周囲がやさしいと安心して意見が言える。子どもも自分の意見をちゃんと言うことが大切。

《大人と子どもが交流できるまち》

- 色々な人と関わることで、子どもは成長できる。乳幼児や高齢者、大学生との交流の場所が必要。
- 地域の大人との交流は、子どもの毎日の安心にもつながる。

《安心して相談できるまち》

- 身近に、秘密が守られて、安心して相談できる場所があるといい。
- 子どもも自分の考えを言葉にしたり、友達同士で相談に乗って助け合うことが大切。

さらに、子どもも大人も笑顔で暮らせるように…

《子育てにもやさしいまち》

- 子育て中の大人にも元気でいてほしい。
- 赤ちゃんが泣いていても迷惑そうにしないなど、周囲の理解とサポートが必要。

《困ったときは助け合えるまち》

- 外国籍や障がいがあって、勉強や人との関わりに困難を抱えている子がいる。
- お互いに理解し、助け合うことが必要。

子どもの権利条例施行10周年

子どもにとって大切な権利

- 安心して生きる
- 自分らしく生きる
- 豊かに育つ
- 参加する

札幌市子ども未来局子どもの権利推進課
〒060-0051
札幌市中央区南1条東1丁目 大通バスセンタービル1号館3階
☎011(211)2942 FAX(211)2943
✉kodomo.kenri@city.sapporo.jp

令和元年(2019年)12月発行